

# 学校だより 希望の鐘

ひとつの鐘はいつしかひびかない



八戸市立  
小中野中学校  
平成31年2月6日(水)  
No.145 文責：校長  
工藤聡

## 外連味の無い、素晴らしい立志式

昨日の2年生の立志式は、とても素晴らしいものとなりました。記念講演の講師として来校された八戸学院光星高校の校長補佐を務めている小野寺實先生は、湊中学校勤務時に、八戸市内で初めて立志式を企画した方です。東中学校の校長だった時には、全国で最も活発に立志式が行われていると言われる、福井県のテレビ局が取材に来たくらいです。(なぜ福井県かということ、幕末の福井藩士に橋本左内という人がいて、その人が15歳の時に書いた啓発録という本の中に『立志』という項目があって、これが立志式のきっかけだという人も多いからです。)その福井県のテレビ局の方が、小野寺先生が校長だった当時の東中の立志式を見て、「福井県内のどの中学校の立志式よりもレベルが高い」と感嘆(カンタン：感心してほめること)して帰ったこともあります。小野寺先生は、今でも県内のいろいろな中学校の立志式に招かれていますので、誰よりも多くの立志式を見ています。その小野寺先生が「これまで見た立志式の中でも、三本の指に入る」とほめていました。それくらいの立志式だったと私も思います。私が、特に「すごい」と思ったのは、パフォーマンスだけに頼らないで、『やるべきことを最高の形でやり遂げる』という外連味の無さ(ケレンミガナイ：はったりやごまかしがないこと)が際立っていたからです。シンプルな内容に、2年生全体の研ぎ澄まされた思い(気持ち)が凝縮されていました。

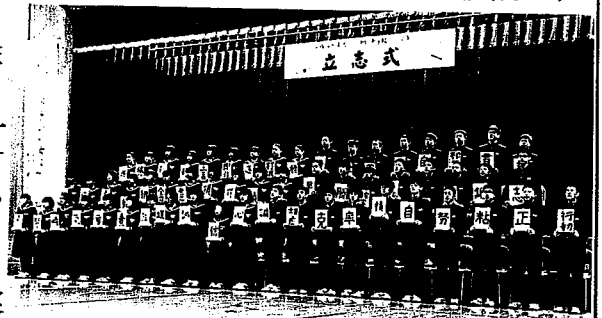
立志式は、八戸市内のほとんどの中学校で行っています。小中野中学校でもずーっとやってきました。では、何のために立志式をやっているのでしょうか？去年も一昨年もやったからでしょうか？ほかの中学校でもやっているからでしょうか？どちらも違います。立志式をやる理由はただ一つです。立志式の様々な取り組みを経て、みなさんを飛躍的に成長させるためなのです。

個人宣言や学年立志宣言の様子を見て、2年生は確実に成長していることがわかりました。自分自身では、気づいていないかもしれませんが、ここ1か月くらいで、ものすごい勢いで成長しているのです。

2年生が、小中野中学校に入学してから1年10か月が経過しました。歴代の先輩に比較して、とても頼りなく見えました。パワーも不足していると思った場面も何度かありました。しかし、それはあくまでも仮の姿であったことが、昨日の立志式やここ最近の活動を見てよくわかりました。頼りなく見えたのは、闇雲(ヤミクモ：むちゃくちゃ)に暴走することなく、慎重に物事を見極めて行動するため、パワー不足に感じたのは、肝腎要(カンジンカナメ：極めて大切なことやもの)な一点に集中して、そのパワーを解き放つための準備であったのだと思います。

立志式にはいろいろな意味があります。誰もがいつかは子どもから大人へと自立しますが、それを自らの意思で行おうとするのが、私は立志式だと捉えています。ですから、幼稚な気持ち、すなわち橋本左内が言う『稚心』を捨てることが何よりも重要です。樂をしたい心、自分だけが良ければいいと思う心、わがままな心。そういった心を封印(フウイン：ふうじこめること)し、学年全体で一つになることこそが、2年生の成長をさらに促していくのだと思います。

2年生がこの1年10か月で、知らず知らずに成長できたのは、昨日も来校された大勢の保護者の方々をはじめとするご家族、学級や部活動の中の友人同士の交流、そして学年の先生方の指導もあると思います。グッジョブウィークの際にご協力いただいた事業所の方々(昨日は、八戸理容美容専門学校(リョウリョウ)の壬生信孝校長先生が来てくれました)や、学習支援ボランティアの方々(昨日は、諏訪荘将棋クラブの方、グラウンドゴルフでお世話になった方、パパママ体験のボランティアの方、読み聞かせでお世話になった大館登美子さん、図書ボランティアの方々が見守ってくれました)等地域の皆様のおかげです。そのことに素直に感謝しながら、3年生に向かって謙虚に準備をしてください。小野寺先生が言った「最高級の最上級生」になれますよ。(立志式での校長祝辞を編集しました。)



## 「おもちゃのカンヅメ」がきました

これからのことは、一昨日の全校朝会で話そうと思ったのですが、インフルエンザの感染が警戒レベルに達していることや、朝の体育館の気温が氷点下を記録していたことで、全校朝会そのものをやりませんでしたので、ここに書くことにしました。

1月17日発行の「希望の鐘No.142」に、「保護者の方から『銀のエンジェル』を3枚いただきましたので、私の持っていた（偶然出てきた）2枚と合わせて送ります」ということを記載しました。その「おもちゃのカンヅメ」が一昨日の月曜日に届きました。現在は、新しく出た「ふしぎなキョロちゃん缶」か、前からあった「金のキョロちゃん缶」のどちらかを選べるようになっているのですが、「金のキョロちゃん缶」は2月28日で終了するというので、そちらにしました。

「金の…」という名称がついてるだけあって、全体が金色（くちばしと足が黄色）のキョロちゃんの缶に、4つのおもちゃが入っていました。その4つとは、①キョロちゃんが消える、魔法のチョコボールボックス（引き出しを開けて、キョロちゃんのメダルを入れて閉じると、キョロちゃんのメダルがなくなる）②コロコロキョロちゃんゲーム（キョロちゃん型ボードを動かすと、キョロちゃんボールがコロコロ動く）③キョロちゃん定規（キョロちゃんを簡単に描くためのステンシル【型】としても使える定規）④キョロちゃんけん玉（頭やくちばし、足で玉を止めることができる）です。そして、何よりびっくりしたのは、入れ物のキョロちゃんの缶のクチバシを触ると、15種類以上の言葉を話すようになっていることです。CMでおなじみの「クエックエックエ〜チョコボール」とか、早口ことばなどです。さらに、説明書には「50回に1回だけトクベツなコトバをしゃべる」機能もついているようです。さすが「銀のエンジェル」を5枚そろえるためには、約135箱も買わなければ手に入らないだけのことはある…と感心してしまいました。



以前も書きましたが、「銀のエンジェル」は私達に大変貴重なことを教えてくれます。

一つ目は、5枚をそろえるためには、自分一人ではかなりの無理があります。しかし、1枚か2枚だけ持っている人たちが協力すれば、そろえられるかもしれないということです。「協力」や「チームワーク」が大事だということです。

二つ目は、もし本当にほしければ、根気強く継続して集めなければならないということです。昨日の立志式の記念講演で話をしてくれた小野寺實先生は、「本物は続く。続ければ本物になる」といつも言っていました。飽きっぽい人には、とても大切な言葉です。

最後の三つ目は、27箱で1枚「銀のエンジェル」が当たるらしいですが、それはあくまで確率であって、もしかすれば50箱で1枚も当たらないこともあるわけです。そこで、どうすれば当たるかということを考えること（創意工夫）も必要です。インターネットで調べると、「当てる方法」というのが出ています。ここでは、「調べる」「創意工夫」の重要さがわかります。

「おもちゃのカンヅメ」は、お金を出して買うことはできません。だからこそ、価値があるのだと思います。学校での成績やテストでの点数、部活動での入賞や優勝等と同じです。学習や部活動の練習でも、「チームワーク・協力」「継続」「調べる・創意工夫」の三つを柱にして取り組んでみてはどうでしょうか。

「おもちゃのカンヅメ」の4つのおもちゃ（4つですから4人）と金色のキョロちゃん缶（1人）を、ほしい人にあげますよ。ほしい人は校長室に来てください。期限は、12日（火曜日）の放課後までとします。多数の場合は、ジャンケンかあみだクジにしたいと思います。

「銀のエンジェル」3枚をご提供いただきました保護者の方、本当にありがとうございました。

### 【今日のひとり言】

●今朝の全国紙の青森県版に、私の前任校で行われた立志式のことを記事になっていました。下北では立志式をやるという習慣（文化）がなく、私が赴任した3年目に初めてやったのですが、それが続いていたこと（4年目）をとてもうれしく思いました。

●立志式の前日、2年1組の \_\_\_\_\_ さんがしおりを校長室に持って来ました。それには「校長先生へ/いつもお世話になっております。私たちは、練習の成果を発揮しますので、どうぞ楽しみにしててください。」とありました。実際、素晴らしい立志式でした。次は、立志式やその練習で得たことを、いかに日常の学校生活に生かすかということだと思います。そっちも楽しみにしていますよ。

●今日の私の似顔絵は、 \_\_\_\_\_ 年、組の \_\_\_\_\_ くんが描いたものです。私よりも、お母さん方のお祖父さんに似ているような気がします。 \_\_\_\_\_ くんは「切り替えを素早くし、けじめをつけられる人になる」というものですが、私も4月からの切り替えをしっかりとしたいと思います。